

1 教育課程・生徒指導

重点目標	自信をもって力を発揮できる児童の育成	P
現 状	H27児童アンケートで「自分にはよいところがある」が2箇学年、「みんなの前で発表するのが好きだ」は1箇学年で肯定的回答が80%未満であり、改善されてきたものの、まだ自己有用感・自己肯定感が不足し、力を十分発揮できない児童が見られる。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人が安心して生活し、自己有用感・自己肯定感をもち自分の力を発揮できる学級・学校づくりを目指す。 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」「みんなの前で発表するのが好きだ」の割合がどの学年も80%以上を目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や学校行事、児童会活動などで、児童一人一人が活躍し、教師や友達に認められ、さらに地域の方にも認められる場を設定する。 ○教師の「一人一人のがんばりを認め、伸ばす」姿勢を徹底する。 ○児童の情報を把握し、その子にとって必要な支援体制を確立する。(加配養護教諭、特別支援教育支援員、生活サポート等の活用) 	

2 学校経営

重点目標	保護者や地域住民との連携・協働の充実	P
現 状	地域に学び、ふるさとに貢献するふるさと・キャリア教育を推進する上で、保護者や地域住民の協力が欠かせない。H27保護者アンケートでは「地域から学び、地域に貢献する活動」の肯定的回答は91.0%であったが、「保護者のPTA行事等への参加」は78.1%であった。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民による教育活動への参加・協力場面を昨年度以上にする。 ○保護者アンケートにおいて、保護者や地域社会との連携・協働に関する事項の肯定的な回答90%以上を目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域に対して、学校の様子をできるだけ多く情報発信し、児童の活動に興味をもってもらう。 ○学区内の自治会の協力を得て、学校と地域につながりを深める。 ○家庭や地域の協力を得た学習活動では、児童が関わってくれた人々への感謝の気持ちを表す振り返りを大切にする。 	

3 学習指導

重点目標	学習指導の充実と確かな学力の向上	P
現 状	H27県学習状況調査の平均通過率は4年68.4%(県71.4)、5年73.6%(67.8)、6年72.7%(69.1)であり、校内児童アンケートで勉強が好きかの問いに肯定的回答が80%に満たなかったのは1箇学年だった。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○県学習状況調査の平均通過率をどの学年も県平均以上にする。 ○アンケートで学習に意欲的な回答がどの学年も80%以上を目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会や授業を見合う会の充実などにより、授業改善に取り組み、授業において児童が生き生きと学び、確かな学力を身に付けることができるようにする。 ○テスト等により学習の定着状況を把握し、発展的学習や補充的学習を展開すると共に、TTによる個に応じた授業を充実させる。 ○授業以外の時間や家庭学習で基礎的・基本的な内容の定着を図る。 	